

Save endangered plants and ourselves!
-Warning in Red Data Book-

第54回企画展

植物たちのSOS

—レッドデータブックからの警告—



■開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

■休館日 毎週月曜日

※3月26日(月)は開館し、振替休館はありません。
※ゴールデンウィーク期間中の4月29日(日)～5月6日(日)は
休まず開館し、振替休館はありません。

■入館料 一般 720円(580円)年間パスポート1,500円
高校・大学生 440円(300円)年間パスポート1,000円
小・中学生 140円(70円)年間パスポート 300円

※()内は20名以上の団体料金です。
※未就学児、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方は入館無料です。
※この料金には、本館内常設展・野外施設入場料が含まれています。
※毎週土曜日は、小・中・高校生は入館無料です。(ただし、春休み期間を除きます。)
※3月20日(春分の日)、5月4日(みどりの日)、6月5日(環境の日)はサイエンスデー
(無料入館日)です。

■主催 ミュージアムパーク茨城県自然博物館

■後援 **NHK** 水戸放送局・茨城新聞社
ミュージアムパーク茨城県自然博物館友の会

■記念行事 ●記念シンポジウム「絶滅危惧植物を救う試み」3月10日(土)
●自然観察会「小貝川の絶滅危惧植物を観察しよう」4月8日(日)
●自然観察会「タチスミレを観察しよう」5月20日(日)
●自然観察会「植物園で絶滅危惧植物を観察しよう」6月10日(日)
※上記イベントは、すべて事前申込み制となっております。

■交通案内 ●車利用の場合
・常磐自動車道谷和原ICから20分
●鉄道・バス利用の場合
・つくばエクスプレス守谷駅下車～関東鉄道バス「岩井行き」乗車～
「自然博物館入口」下車、徒歩5分
・東武野田線受岩駅下車～茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車～
「自然博物館入口」下車、徒歩10分

■次回企画展のお知らせ 第55回企画展
「不思議いっぱい貝たちの世界 - 蝸牛から烏賊・蛸まで -」
2012年7月7日(土)～9月17日(月)

2012年

3月10日(土) ▶ 6月10日(日)

※写真は、菅生沼に生育する絶滅危惧植物「タチスミレ」

ミュージアムパーク

茨城県自然博物館

〒306-0622 茨城県坂東市大崎700番地 TEL.0297-38-2000
ホームページアドレス <http://www.nat.pref.ibaraki.jp/> 茨城県自然博物館 検索



植物たちのSOS

第54回企画展

—レッドデータブックからの警告—

日本は狭い国土にもかかわらず豊かな植物相に恵まれ、種子植物とシダ植物を合わせると約7,000種[※]が生育しています。しかし近年、開発行為や園芸目的の採取などの人間活動の影響や、逆に身近な雑木林や湿地などでは人の手が入らなくなることによって維持されてきた環境が変化し、多くの植物が絶滅の危機に直面しているといわれています。

環境省は、全体の約4分の1にあたる1,690種の植物を絶滅危惧植物に指定し、それらを守るための策を講じています。さらに、私たち人間生活の豊かさのためには、特定の種を絶滅の危機から守るばかりでなく、生物多様性を維持することが欠くことのできない課題となっています。

この企画展では、絶滅危惧植物のおかれた現状や、その保全に向けての取り組みを紹介し、植物と私たちの共通の未来について考えていきます。

※亜種、変種を含む

ヨシ・オギ原に生育する絶滅危惧植物



タチスミレ



ハナムグラ



トネハナヤスリ



毎年1月に菅生沼で実施する野焼き



野焼きによって、枯れた植物が除かれる



5月になると、一面にヨシやオギが再生する

茨城県自然博物館に隣接する菅生沼では、野焼きによって、タチスミレなどの絶滅危惧植物の生育する環境が守られています。

展示構成

消えゆく植物たち〈プロローグ〉

絶滅危惧植物を知る

レッドデータブックとは

絶滅危惧植物を守る取り組み

植物と私たちの未来〈エピローグ〉



交通案内

- 車利用の場合
★常磐自動車道谷和原ICから20分
- 鉄道、バス利用の場合
★つくばエクスプレス守谷駅下車
↓
関東鉄道バス「岩井行き」乗車
↓
「自然博物館入口」下車、徒歩5分
★東武野田線愛宕駅下車
↓
茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車
↓
「自然博物館入口」下車、徒歩10分